

『DXで「こどもまんなか」プロジェクト』

こども家庭庁設立準備室

1. プロジェクトの背景 ～ 子育て家庭からいただいた声

1 行政手続に関する声

何をどのタイミングで手続きをどこですべきか最初は分からず戸惑った。

予防接種ではスケジュール管理が難しく、病院とのコミュニケーションが大変だった。

つわりが辛い中、母子健康手帳の手続きのために外出するのが困難だった。

出産後の手続きは期限があるものが多く、産後間もない体の状態で役所に行かなければいけないのが辛かった。

妊婦健診の助成券もすべて手書きなのが大変。

予防接種の提出書類について予防接種の回数や種類も多い中、子どもを抱えながら時間を見つけて全て手書きというのがとても大変だった。携帯などで、記入をして電子化してもらえたら楽になると感じた。

3 子育ての不安や悩みに関する声

離乳食を始めるにあたり食べて良いもの、食べる量は離乳食相談会でよく聞かすが、絶対に食べていけないもの、危険なものも冊子で知りたい。

ネットで不確かないろんな情報が出て何が正しいかわからない

子育てなどで困ったときに誰に相談して良いか分からなかった。助産師？ 支援センターの方など。とりあえず何でも相談したら振分けしてくれる、コンシェルジュ的な方がいると助かる。

生後3ヶ月くらいまで、理由もなく夕方にギャン泣きする期間が続き、精神的につらかった。

2 子育てサービスに関する声

子育て支援センターについての情報は紙媒体が多かったり個別にホームページを見なければならぬので様々な子育てイベントが一覧になっているホームページを作ってほしいです。

子育て支援をやっている場所がわからず、ホームページを見てもまいち分かりにくい部分があった

切迫早産で入院になった時、上の子を預ける場所を探すのに苦労した。一時預かり可能と書いてある園でもいっばいで難しいと断られることも多かったので、できる限りリアルタイム情報を得られる場所があれば助かったかなとおもう。

市の産後ケア事業を使用したい時に、保健センターまで行って申込書を記入しないと行けなかった。産後ケアを使用したい時は困っていてすぐに使いたいという時なのでもっと簡単にスピーディーに使用したかった。また、費用が高く、負担が大きかった。

4 経済的な支援に関する声

準備するものが多く、またお金もかかるので資金面で困った。産休手当など手当が入るのが遅くて大変だった。

出産前のものを揃えるのに、とてもお金が掛かった。あかちゃんのは高価なため、もう少し手当を厚くしてほしい。あと、手当の振り込みが遅くて家計が苦しかった。産んだらすぐに振り込んでほしい。

2. 将来的に目指していくイメージ

「デジタル技術で、子育てをもっと楽しく・安心・べんりに」

1. 大変な行政手続なども…



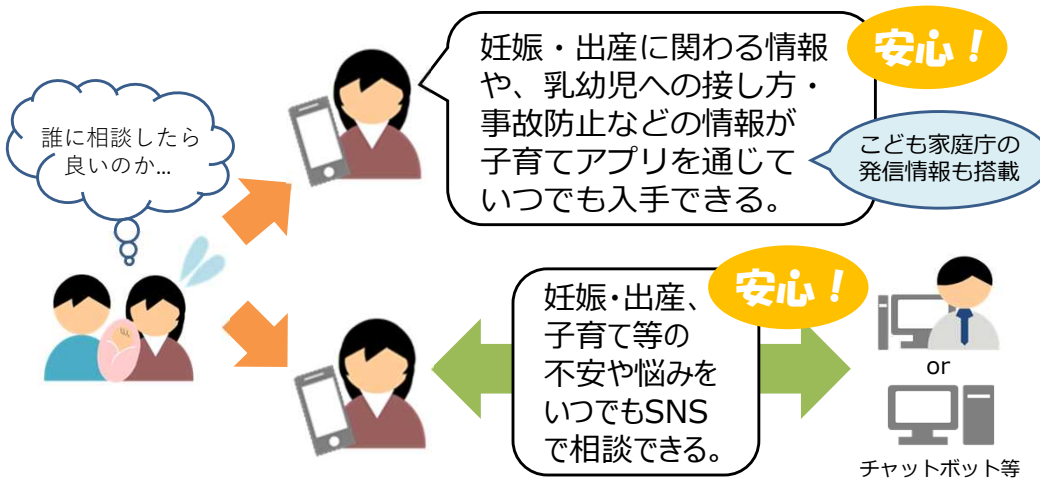
※ 必要な手続きが適時にわかり、スケジュール管理の手間、申請漏れがなくなる。
※ 乳幼児を抱えながら市役所に行かなくて申請でき、子育てセミナーの参加も容易に。

2. 保育サービス等を利用する場合も…



※ 急遽必要となる一時預かりや病児保育等も、アプリで空き情報を確認し、申請も完結。

3. 妊娠・出産の不安、子育てに悩んでも…



※ 子育て関連イベントなどの情報についても発信。
※ チャットボット等を活用して、不安や悩みへの正しい情報提供を可能にしつつ、案件によっては、助産師や保健師の直接面談を案内する。

4. 経済的な支援も…



このような声を受け、

『DXで「こどもまんなか」プロジェクト』

を展開していくこととし、

昨年末に「こども政策DX推進チーム」

を立ち上げました。

速やかに取り組みを始めます。

こども政策DX推進チームの概要

1. 趣旨

子育てをより楽しく、安心、べんりなものとするこゝで、こどもまんなか社会を実現するためには、第一に、こどもや子育て家庭が**必要な情報に素早く、簡単にアクセスでき**、様々な行政手続きをストレスなく行うことができる環境を整備することが重要である。

また、保育園などの子育て関連事業者や地方自治体など、こども政策の現場に携わる方々の**事務負担を軽減**し、こどもや子育て家庭への支援にかける時間やエネルギーをできるだけ**こども政策の質の向上に振り向けていく**ことも重要である。

このため、「こども政策DX推進チーム」を立ち上げ、DXの推進を通じてこどもまんなか社会の実現を図っていく。

2. 検討事項

(1) 子育て家庭の手続負担を軽くするための取組み

○マイナポータル（ぴったりサービス）などの活用による**オンライン化**

○オンライン化の制度的課題についても洗い出し、
法令改正も含め**必要な制度改善を検討**（長期的取組）

○DXを活用した**伴走型相談支援**【優先して取り組む事項】

妊娠時から産後の育児までの伴走型支援

子育て世帯とのつながりを強化するための**経済的支援**

（令和4年度補正予算事業を速やかに開始し、継続的に取り組む）

(2) 保育園などの事業者や地方自治体などの事務負担を軽くするための取組み

○保育園などの基本情報の**データベース「ベースレジストリ」**を整備

○活用用途やそのために必要な情報の整理、レジストリの情報の入力方法の整理

○**デジタル庁とも連携**しつつ、現場や地方自治体などのニーズに応じた検討

3. スケジュール

令和4年12月	「こども政策DX推進チーム」立ち上げ
令和5年3月	DX推進チームの取組の工程表策定
随時	成果の出たものから順次リリース
令和5年夏ごろ	必要な予算をR6概算要求に盛り込む
秋ごろ	こども大綱の策定

4. チーム体制

チームリーダー	小倉こども政策担当大臣
副リーダー	和田内閣府副大臣
副リーダー	自見内閣府大臣政務官
アドバイザー	畑中政策参与
事務局長	渡辺内閣審議官(こども家庭庁設立準備室長)
事務局長代理	小宮内閣審議官 (こども家庭庁設立準備室次長)
チーム員	北波内閣審議官 (こども家庭庁設立準備室審議官)
	長田内閣審議官 (こども家庭庁設立準備室審議官)
	黒瀬内閣府大臣官房審議官 (政策調整担当)
	滝澤内閣府大臣官房審議官 (政策調整担当)
オブザーバー	野村厚生労働省大臣官房審議官
	内山デジタル庁国民向けサービスグループ次長

参考（アンケート調査結果）

※ 全国調査ですが特定の団体で実施しているため、調査結果についてはあくまでも傾向を知るための参考数値としてお取り扱いください。

子育て家庭へのアンケートについて

- 調査手法：NPO法人子育てひろば全国連絡協議会のご協力を得て、アンケートを実施。
調査期間：令和4年11月17日（木）～令和4年11月21日（月）
回答数：130（うち、女性：129 男性：1）
（うち、20代：22 30代：96 40代：11 Na：1）

- 質問事項は以下の①～③のとおり。
 - ① 妊娠や出産前後の手続きで何かわからないことがありましたか。また、書類が多いと感じたり、複雑と感じたことがありましたか。
 - ・ 課題のご回答をいただいた数：**78（60%）**
 - ・ ご指摘の多かった分類：**予防接種、妊婦健診、里帰り出産、母子健康手帳、乳幼児健診**

 - ② 妊娠や出産前後の期間に、欲しい情報がどこにあるのかわからなかったり、もっと詳しい情報がほしい、より正確な情報がほしい、などと思ったことはありませんか。
 - ・ 課題のご回答をいただいた数：**66（51%）**
 - ・ ご指摘の多かった分類：**妊娠期から情報がほしい、一覧できる情報がほしい、必要な情報がどこに・何があるかわからない、地域子育て支援拠点の情報がほしい、出産前教室等の中止等により情報が得られにくい。**

 - ③ その他、妊娠や出産前後で困ったことがあれば教えてください。
 - ・ 課題のご回答をいただいた数：**64（49%）**
 - ・ ご指摘の多かった分類：**産後支援、きょうだい関係、経済的支援、産休・育休関係、悩み関係**

（注）分類をするにあたっては、回答の文脈から区分けしている項目もあること、また、1人の回答者が複数の分類への意見をしている場合にそれぞれ1つの意見として集計していることから、上記分類についてはあくまで目安である。